

企画のポイント

- ▶ 大津財務事務所がもつネットワーク機能を活用し、支援機関、金融機関など幅広いメンバーが出席
- ▶ 前4回分の「地域未来ミーティング」(講演→ワーキング)とは異なり、開催時間の全てを参加者間によるワーキングとして活用
- ▶ 小グループによるワーキングだけでなく、参加者一同による合同セッションも実施(後述参照)

開会挨拶



■主催者：森中高史 守山市長
「今夏から供用開始した新庁舎等の拠点を軸に、地域活性化に資する取り組みや、交流・意見交換が街中のいたるところで日常的に行われることを理想と考えており、守山市を社会的な実証実験のフィールドにしたい」

■共催者：
大野隆幸 大津財務事務所長

「守山市は地方創生に対して大変熱心に取り組みされており、当所もその姿勢に共感して共催させていただいている。今日は、参加者の皆様による活発なご議論を期待しており、私も財務省財務局の立場で、皆様に様々なお話をさせていただければ幸い」



ー 起業家の集まるまちを目指す守山市と
「地域未来ワーキング」を共催ー

【イベント概要】

イベント名：地域未来ワーキング
開催日：令和5年10月31日(火)
主催：守山市、守山市しごとはじめ支援協議会
共催：近畿財務局大津財務事務所
場所：守山市役所 1階多目的ホール
目的：行政、商工会議所、地域金融機関、士業らによる交流機会・情報共有の場の提供により、ワンストップ支援体制の確立と官民連携での起業家のまちづくりの推進を目的として、令和2年から開催



令和5年8月14日よりオープンした守山市役所新庁舎(建築家の隈研吾氏が基本設計)

ワーキング（小グループ）の様様

- ワーキングに先立ち、守山市担当者から市の概況や施策等について話題提供をいただいた上で、「補助金のあり方」及び「地域の事業者にとって今必要と思われる支援は何か」をテーマに、参加者を7つの小グループに分け、ディスカッションを行いました。



2つのワーキングで出た主な意見等

【補助金のあり方】

- 事業者が申請手続面で苦手意識を持っていることから、各種手続をより簡素化できないか。
- 事業によっては2、3年計画のものもあり、単年度しか確約されない補助金は使い勝手が良くない場合がある。

【地域の事業者にとって、今必要と思われる支援は何か】

- 守山市をハブ拠点として整備（地域関係者の連携強化を推進）
- （補助金・助成金について）目的・用途を限定せず、成長意欲の高い事業者への幅広い支援
- 伴走型支援パッケージの構築（ヒトモノ情報）
- ビジネス機会の提供（販路拡大のための商談会等）

ワーキング（合同セッション）の様様

- 続いて、小グループのワーキングだけではなく、参加者をひとつの大きなグループに集めた上で、「YES」「NO」のパネルを各々が持ち、ファシリテーターの問いかけに対して自身の考えを一斉に掲げるといった合同セッションも行いました。



大津財務事務所は、今後も地方創生、地域活性化のために、関係機関と連携して取り組んでまいります。

